**パラグアイ定期報告（内政・外交概況　2013年12月）**

**概要**

**（１）内政**

●１日，シュマルコ前市長（現ヤシレタ二国間公団パラグアイ側総裁）の後任を選出するエンカルナシオン市長選挙が実施され，コロラド党候補のマイダナ氏が当選した。

**●**１８日，下院において，大統領府直属の国家インテリジェンスシステム創設法案が可決された。

●１９日，上院本会議において，政府及び政府系機関に対し，職員の氏名や給与等の情報の公開を義務付ける情報公開法案が可決された。

●１９日，上院本会議において，政府及び政府系機関における縁故採用を禁じる縁故採用禁止法案が可決された。

**（２）外交**

●５日，政府は議会に対し，ベネズエラのメルコスール正式加盟に関する議定書を提出した。

**●**６日，カルテス大統領は，ボリビアを公式訪問し，モラレス大統領との首脳会談等を行った。

●１０日，上院臨時本会議において，５日に政府が議会に提出したベネズエラのメルコスール正式加盟に関する議定書の批准に向けた審議が行われ，賛成多数で承認された。

●１１日，ロイサガ外相は，ブラジルを訪問し，フィゲイレード・ブラジル外相との会談等を行った。

●１８日，下院臨時本会議において，１０日に上院において承認されたベネズエラのメルコスール正式加盟に関する議定書の批准に向けた審議が行われ，賛成多数で承認された。

●１８日，下院本会議において，客年６月２８日付の下院におけるマドゥーロ・ベネズエラ外相（当時）に対する「ペルソナ・ノン・グラータ」の宣告を取り消す決議について，審議が行われ，賛成多数で採択された。

●２４日，政府は，議会において可決されたベネズエラのメルコスール正式加盟に関する議定書を，２４日付けで公布した。

**１　内政**

**（１）国家インテリジェンスシステム創設法案**

●１８日，下院において，ルビン下院議員が提出した同法案が可決された。同法案は，大統領府直属の国家インテリジェンスシステムを通じ，関係当局間で犯罪対策等に関する情報を共有することを目的としている。同法案は，今後，上院に送付される予定。

**（２）情報公開法案**

●１９日，上院本会議において，同法案に関する審議が行われた。同法案は，政府及び政府系機関に対し，職員の氏名や給与等の情報の公開を義務付ける内容となっているが，各機関の長に対し，情報公開の範囲を設定する権限を付与する旨の修正が含まれた形で可決され，下院に送付された。

**（３）電気メトロバス導入法案**

●４日，下院臨時本会議において，電気メトロバス導入にかかる総額２億1千２百万ドルの借款に関する法案が可決・成立した。

**（４）穀物輸出税法案**

●政府が拒否権を発動し，上院に差し戻されていた同法案について，５日，上院本会議において，本件が再審議が行われ，同拒否権が２４名の賛成票をもって承認された。

**（５）縁故採用禁止法案**

●１９日，上院本会議において，政府及び政府系機関における縁故採用を禁じ，また，処罰する法案の審議が行われ，同法案が可決された。同法案は，今後下院に送付される予定。

**（６）カルテス政権発足１００日の評価**

●８日付けLa Nacion紙は「カルテス大統領政権運営１００日における６つの矛盾」と題した以下の評価を掲載した。

①メルコスールを巡る問題

当初は，パラグアイの立場・尊厳が尊重されなければならない旨主張していたが，ベネズエラの正式加盟を承認する意向を示す。

②前政権に対する会計検査

国庫にまったく公金がない状態で大統領に就任した旨述べ，前政権の会計に関する監査を実施したものの，その後，報告書を公表していない。

③穀物輸出税法

当初は同法の導入を支持していたが，議会で可決されたのち拒否権を発動した。

④公共バス企業に対する補助金

就任当初，同補助金の廃止を公言していたが，その後，２０１４年も引き続き補助金を給付する旨発表した。

⑤電気メトロバス導入

当初，電気メトロバス導入の代替案を模索する立場を示していたが，その後，議会に対し電気メトロバス導入のためのIDBから借款を承認するよう要請した。

⑥国連代表部大使の任命

アルフレッド・グスタボ・ストロエスネル元上院議員（ストロエスネル元大統領の孫）を指名する予定であったが，人権団体等より反発があったことから，同上院議員を候補者リストから外した。

**（７）議員の汚職を巡る動向**

●２日，議会の予算で自身の別荘管理人の給与を支払っていた可能性が浮上しているイバニェス下院議員（コロラド党）は，検察より議員特権停止が要求される可能性があることから，同特権停止の要請があった場合，要請に応じる旨述べた。

●４日，下院において，農地土地開発院（Indert）の不正土地購入問題への関与が疑われているドゥレ下院議員（リベラル党）の議員特権停止が承認された。

●１０日，ボガード上院議員（コロラド党）は検察庁へ出頭し，自身の娘のベビーシッターが下院議会及びイタイプ二国間公団より二重に給与を受け取っていた問題について，事務手続き上のミスであった旨主張した。また，１３日，同上院議員は，裁判所に出頭し，担当のロペス判事から出国禁止等を命じられた。

**（８）エンカルナシオン市長選挙**

●１日，シュマルコ前エンカルナシオン市長（現ヤシレタ二国間公団パラグアイ側総裁）の後任を選出する選挙が実施され，コロラド党候補のマイダナ氏が７６．３２％（１１．１５１票）を獲得し当選し，９日，エンカルナシオン市長に就任した。

**（９）治安に関する世論調査**

●当地世論調査会社Ibopeが実施した治安に関する世論調査結果によると，約９７％が現政権下における治安は，前政権と比較して悪化している旨回答した。同世論調査結果について，デ・バルガス内相は，反政府キャンペーンに過ぎない旨発言した。

**（１０）コロラド党の動向**

＜新派閥の結成＞

●９日，ベラスケス上院議員を支持するコロラド党下院議員は，ベラスケス上院議員の２０１６年コロラド党党首選挙への立候補及びトゥマ下院議員の２０１５年アスンシオン市長選挙への立候補を視野に入れ，トゥマ下院議員をリーダーとする新たな派閥を結成した旨報じた。これにより，下院において，サカリアス派，カルテス派に続く,第３の派閥が結成されたこととなる。

＜政権閣僚に対するコロラド党内からの批判＞

●１３日，アスンシオン市内のコロラド党員は，テクノクラートで占められたカルテス政権閣僚の仕事ぶりを批判するとともに，カスティグリオーニ上院議員（コロラド党）に対し，コロラド党員のカルテス政権への参加を要求した。これを受け，カスティグリオーニ上院議員は，閣僚を全てコロラド党員とすべきである旨述べた。

●これに対し，１５日，ガラベルナ上院議員（コロラド党）は，カルテス大統領の政権運営及び現閣僚を支持する旨述べ，１６日，サカリアス・イルン上院議員（コロラド党）は，カスティグリオーニ上院議員がおこなった上記発言を批判した。

**（１１）リベラル党の動向**

●１４日，リベラル党は党大会を実施し，次期総選挙及び次期市長選へのアウトサイダーの立候補を可能とするために，今後６ヶ月以内に党則を改定し，最低５年間の党員活動実績が必要とされている党内被選挙人要件を撤廃，または，緩和することを決定するとともに，現政権との合意形成を可能とする「現代的野党」としての立場を示していく旨決定した。

**２　外交**

**（１）国連人権理事会理事国への立候補**

●１０日，パラグアイ外務省は，２０１４年国連人権理事会理事国選挙への立候補を発表した。

**（２）メルコスール関連**

＜ベネズエラのメルコスール正式加盟に関する議会承認＞

●５日，政府は議会に対し，ベネズエラのメルコスール正式加盟に関する議定書を提出した。ロイサガ外相は，今次決定に際しての近隣諸国からの圧力を否定するとともに，同決定が，自主的な形で，熟慮と議論の上でなされたものである旨述べた。なお，政府は，同議定書の議会への提出にかかる要請書において，議会に対し，パラグアイ国民の経済的，社会的発展のために，来年のメルコスール・EU・FTA締結交渉への参加がいかに重要かを説明するとともに，メルコスールへの参加により，現在及び将来において，パラグアイが尊厳を守りつつ，国の経済及び国の統合的な発展のための決定を行うことが可能となる点につき，理解を求めた。

●１０日，上院臨時本会議において，５日に政府が議会に提出したベネズエラのメルコスール正式加盟に関する議定書の批准に向けた審議が，上院議員４０名の参加のもと行われ，投票の結果，賛成２９票（コロラド党１８票，左派連合５票，ＵＮＡＣＥ党２票，前進する国家連合２票，国民会合党１票，リベラル党１票），反対１０票（リベラル党９票，進歩民主党１票），棄権１票（コロラド党）の賛成多数で承認された。同審議において，サギエル上院議員（野党リベラル党党首）が，与党コロラド党の方針転換を批判したのに対し，ガラベルナ上院議員（コロラド党代表会議副議長）は，コロラド党の政権復帰やチャベス大統領（当時）の死去など，内政・外交を巡る情勢が変化したことから，同党は当初の方針を変更し，ベネズエラのメルコスール正式加盟を承認するに至った旨述べた。

●１８日，下院臨時本会議において，１０日，上院において承認されたベネズエラのメルコスール正式加盟に関する議定書の批准に向けた審議が行われ，投票の結果，賛成４８票（コロラド党４１票，リベラル党２票，前進する国家連合２票，左派連合１票，国民会合党１票，無所属１票），反対１票（コロラド党），棄権１票（リベラル党）の賛成多数で承認された。同審議において，イバニェス下院議員（コロラド党）は，現在，パラグアイが投資誘致に向けた絶好のチャンスを有しており，メルコスールに復帰しない場合，パラグアイは投資対象国としての魅力を失う旨述べた。これに対し，フロレンティン下院議員（リベラル党）は，カルテス大統領の方針転換について，何ら根拠もなく，ベネズエラのメルコスール正式加盟を支持していると批判した。

●１９日，カルテス大統領は，自身の国際関係顧問がメルコスール問題の解決策を提案できなかったことから，ベネズエラのメルコスール正式加盟に係る議定書の議会へ提出するに至った旨述べた。

●２４日，政府は，議会にて可決されたベネズエラのメルコスール正式加盟に関する議定書を，２４日付けで公布した。

＜マドゥーロ・ベネズエラ外相（当時）に対する「ペルソナ・ノン・グラータ」＞

●１８日，下院本会議において，客年６月２８日付の下院におけるマドゥーロ・ベネズエラ外相（当時）に対する「ペルソナ・ノン・グラータ」の宣告を取り消す決議について，審議が行われ，賛成多数で採択された。

●同審議において，イバニェス下院議員（コロラド党）が，メルコスール及び南米諸国連合（UNASUR）だけでなく，ベネズエラにおいても，政治的に重要な変化が生じたと述べ，同決議案を支持したのに対し，トゥマ下院議員（コロラド党）は，マドゥーロ大統領が，パラグアイに対し，未だ公式には謝罪していないと述べ，同決議案に反対した。

＜ボリビアのメルコスール加盟＞

●１５日，一部の野党議員は，カルテス大統領が６日にボリビアを訪問した際に，ボリビアのメルコスール正式加盟のパラグアイ議会での承認について，肯定的な発言を行っていたことについて，行政府には立法府の決定を代弁する権利はない旨批判した。

●１６日，ロイサガ外相は，パラグアイがボリビアのメルコスール正式加盟を支持す

る旨述べた。

**（３）カピタニチ・アルゼンチン官房長官の当国訪問**

**●**４日，カピタニチ・アルゼンチン官房長官が当国を訪問し，カルテス大統領を表敬した。カピタニチ官房長官は，表敬後，記者団に対し，現在，パラグアイがベネズエラのメルコスール正式加盟を承認するチャンスを有している点などについて意見交換を行った旨述べた。

**（４）カルテス大統領のボリビア訪問**

**●**６日，カルテス大統領は，ボリビアを公式訪問し，モラレス大統領との首脳会談等を行った。同首脳会談においては，両国関係のみならず，地域レベルや国際場裏における両国共通の関心事項についても意見交換が行われた。

●両国大統領が首脳会談後に署名した共同声明の主要点は以下のとおり。

－ボリビア産LPガスのパラグアイへの輸出に関するボリビア石油公社とパラグアイ

石油公社との間の覚書への署名を歓迎。

－全面的な地域統合及び二国間関係緊密化に向けた，両国間のアクセス改善への関心

を表明。

－両国貿易関係の重要性を強調するとともに，両国外務省及び関係当局間で，両国

間貿易の増加に向けて，既存の対話メカニズムを再開させることに合意。

－社会・経済発展の軸としてのパラグアイ－パラナ水路の戦略的重要性につき，一

致するとともに，河川輸送セクターの促進のための合意の可能性を検討すること

を決定。

－二国間対話の促進のために，両国外相に対し，主要課題を検討するため政策協議

の早期実施を指示。

**●**カルテス大統領は，会談後の共同記者会見において，モラレス大統領と，今後，連絡を密に取っていくことができるだろうとした上で，密に連絡を取り合えることができれば，より多くの共通の関心事項について，話し合うことができるだろうと述べた。

●これに対し，モラレス大統領は，カルテス大統領に対し，同大統領の誠実さとボリビア国民に対する信頼に感謝の意を述べるとともに，懸案事項はあるものの，自分（モラレス大統領）とカルテス大統領の間に信頼が醸成された旨述べた。

**（５）ロイサガ外相のブラジル訪問**

●１１日，ロイサガ外相は，ブラジルを訪問し，フィゲイレード・ブラジル外相との会談等を行った。同会談においては，両国関係全般やインフラ，社会分野における両国の協力等について意見交換が行われた。

●ロイサガ外相は，同会談後の共同記者会見において，ブラジルがパラグアイの発展プロセスのための重要なパートナーであるとした上で，今次会談により，両国関係が更に密接なものとなった旨述べるとともに，今後も両国大統領が策定した方針に従って協働していく旨述べた。

●これに対し，フィゲイレード外相は，同会談において，ロイサガ外相に対し，ベネズエラのメルコスール正式加盟に関する議定書がパラグアイ上院において承認されたことに，ブラジル政府を代表して，祝意を表した旨述べた。また，今後，メルコスールを巡る状況が早期に正常化に向かうだろうと述べるとともに，現在の状況に満足している旨述べた。

**（６）パラグアイ・メキシコ関係**

●２１日，ロイサガ外相は，政府は，太平洋同盟へのプレゼンスを強化するため，メキシコとの自由貿易を視野に入れた経済補完協定交渉に関する協議を，２０１４年に再開する意向である旨明らかにした。

**（７）大使人事**

●２日，ルイス・ディアス新OAS代表部大使は，インスルサOAS事務総長に対し，信任状を捧呈した。

●１０日，チャセ次期ウルグアイ大使，アルガーニャ次期エクアドル大使及びサギエル次期ラテンアメリカ統合連合（ALADI）大使は大統領府において就任の宣誓をした。

**（８）当地韓国大使による信任状の捧呈**

●２９日，ハン・ミュン・ジェ新当地韓国大使はカルテス大統領に対し，信任状を捧呈した。

**３　要人往来**

**（１）来訪**

●４日，カピタニチ・アルゼンチン官房長官，（カルテス大統領表敬）

●９日，ドス・サントス・ブラジル外務次官，（ロイサガ外相との会談）

●１９日，ピンタド・ウルグアイ公共事業通信相，（カルテス大統領表敬等）

**（２）往訪**

**●**３～８日，サマニエゴ・コロラド党党首，マレーシア訪問（統一教会招待）

**●**２～４日，ロハス大蔵相，ペルー訪問（アンデス開発公社（CAF）理事会出席）

●５～６日，カルテス大統領，ボリビア訪問（モラレス大統領との会談等）

●１１日，ロイサガ外相，ブラジル訪問（フィゲイレード外相との会談等）

●１２～１３日，バリオス厚生相，ブラジル訪問（UNASUR保健諸機関視察等）

●１０～１８日，バイアルディ女性相，イタリア訪問（ｲﾀﾘｱ･ﾗﾃﾝｱﾒﾘｶ･ｶﾘﾌﾞ会議出席等）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　(了)